2―⑰　上毛モスリンの工場建築群

館林市城町（旧館林城跡）

平成５年５月当時の
神戸生絲㈱館林工場　写真2-3-17

神戸生絲㈱館林工場位置図

現在の旧上毛モスリン事務所　写真2-3-19

明治43年の旧上毛モスリン事務所
（開業式写真の部分）　写真2-3-18

1 旧上毛モスリン事務所　※移築現存

○建築年代　明治四十二年（一九〇九）
○構造　木造二階建て　瓦葺き入母屋屋根
○面積　一階二四五㎡、二階二〇八㎡

上毛モスリン株式会社の本館事務所として使われてきた建造物である。明治四十三年の配置図（写真2―3―2）によれば、敷地の西側の正門を入った中央左手に位置していた。

明治四十二年十二月十九日の銘のある棟札（写真2―3―22）が付随していることから、上毛モスリンが旧館林城の二の丸に移転し創業を開始した当時、会社の事務所として建てられた建築物であることがわかる。

木造入母屋造のほぼ総二階建ての建物で、桟瓦葺き、庇の出が浅い。平面（ひらめん）の屋根中央に、千鳥破風を片側二か所ずつ取り付けている。外壁は大壁造の下見板張りで、ペンキ仕上げ、縦長の上げ下げ窓が特徴となっている。南側の妻面中央部に玄関ホールと車寄せを設け、その左右に小部屋を配置し、玄関側から見ると左右対称（シンメトリー）となっている。

旧上毛モスリン事務所東面　写真2-3-21

旧上毛モスリン事務所正面玄関（南面）　写真2-3-20

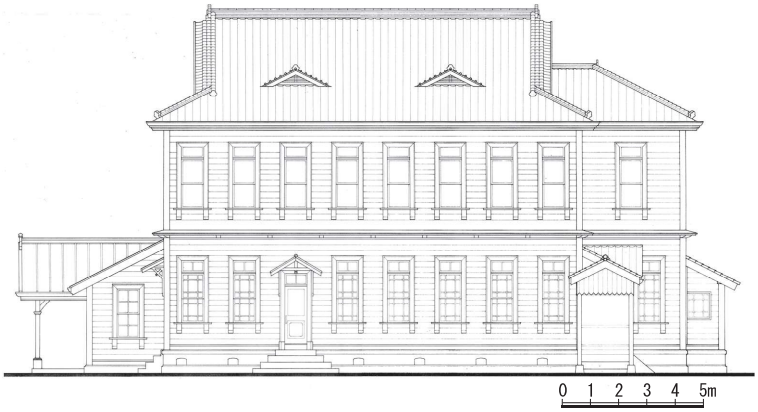

図2-3-7　旧上毛モスリン事務所　東立面図

図2-3-6　旧上毛モスリン事務所
南立面図（正面玄関）

基礎石は、茨城県産の花崗岩と栃木県産の大谷石の組み合わせである。

玄関上部のキングポスト装飾や縦長の上げ下げ窓をはじめとする外観、内部の四角いエンタシスの柱、漆喰と縦羽目板張りペンキ仕上げの腰壁、天井の換気孔、階段の手摺りなどに洋風建築独特の装飾がみられ、明治という新しい時代を意識した建造物というイメージが強い。一方では、入母屋屋根や尺貫法が用いられるなど、日本古来の伝統的な和風建築の要素も残っている。本建物の設計者や施工者に関わる記録はなく、棟札にも記載されていないが、明治四十一年の工場棟札（写真2―3―38）には、建築技師長や大工などの職人名が記されていることから、同じ人たちの施工が考えられる。

昭和五十三年に市へ譲渡され、群馬県の重要文化財に指定、翌五十四年に曳き移転と復元工事を実施した。昭和五十六年から館林市第二資料館として保存・公開されている（保存修理工事については、第四章三節〈4―①〉参照）。平成二十三年には「ぐんま絹遺産」にも登録された。

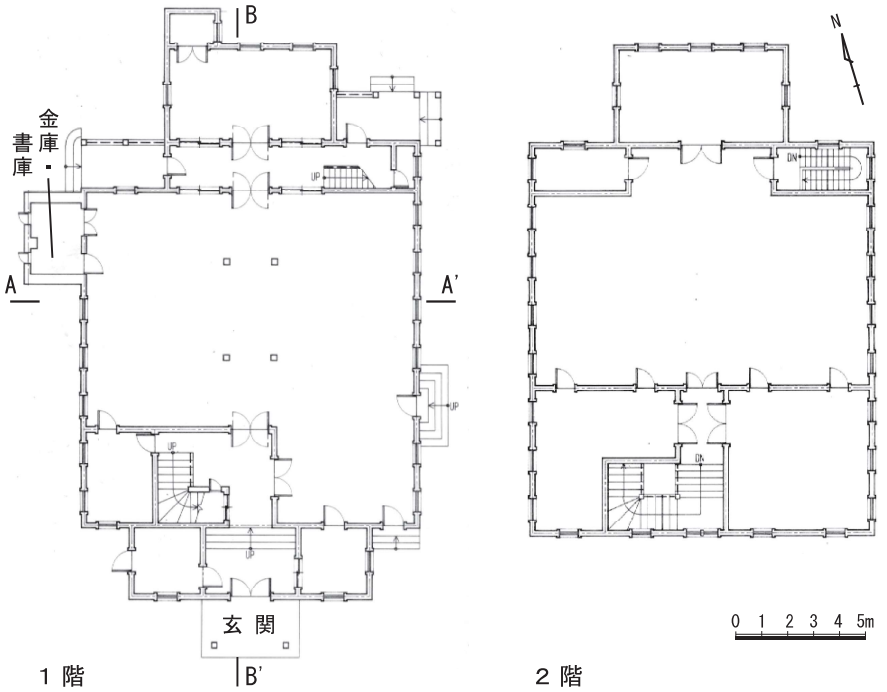

図2-3-8　旧上毛モスリン事務所平面図（１階・２階）

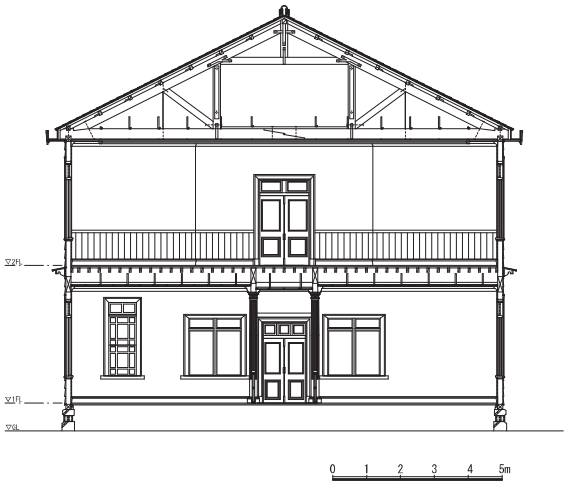

図2-3-9　旧上毛モスリン事務所断面図（A-A'）

図2-3-10　旧上毛モスリン事務所断面図（B-B'）

（裏面）　（表面）

写真2-3-22
旧上毛モスリン事務所棟札
（明治42年12月19日上棟）

旧上毛モスリン事務所２階広間　写真2-3-26

旧上毛モスリン事務所１階内部
（エンタシス様式のケヤキ柱）　写真2-3-23

旧上毛モスリン事務所小屋組（トラス）　写真2-3-27

旧上毛モスリン事務所１階内部
（耐火金庫と書庫入口）　写真2-3-24

旧上毛モスリン事務所
煉瓦造の耐火金庫・書庫　写真2-3-28

旧上毛モスリン事務所
階段（空中中折れ階段）　写真2-3-25